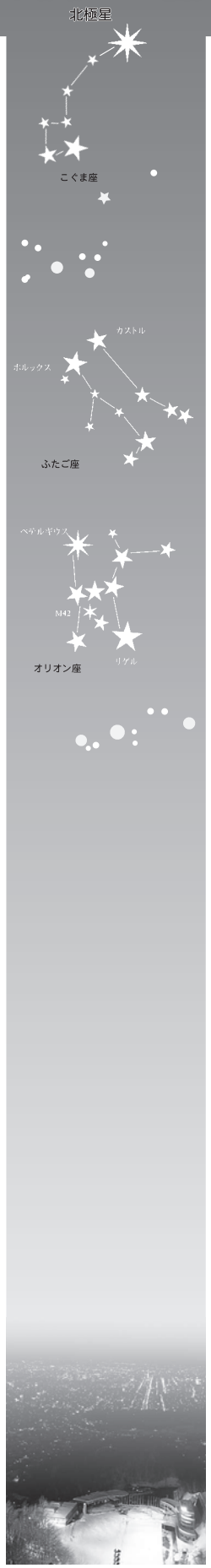
勧進帳

函館市医師会 会長　本間　哲

『大恩教主の秋の月は涅槃の雲に隠れ、生死長夜の長き夢、驚かすべき人もなし。・・・』、歌舞伎十八番、勧進帳、安宅の関の場で武蔵坊弁慶が関守の富樫左衛門に追及され、真っ白な勧進帳をまるで字面を読み上げるが如く演じる場面の台詞である。

弁慶の勧進帳読み上げから禅問答、強力（義経が荷役に扮する）の打擲（ちょうちゃく）から詰め寄りと、弁慶の大芝居からの一連の立ち振る舞いは迫力に満ちており、我々を大いに楽しませてくれます。しかし馴染み客はむしろ富樫の葛藤、即ち強力が義経と判り弁慶がそこまでして主君を守るのかと感動するも、関所を通すと自分の首も飛ぶと解りつつ演技する様を楽しむようです。勧進帳の読み上げは何度観ても圧巻ですが、これは正に「嘘も方便」の物語であり人に感動すら与えます。しかし迷惑千万な嘘もあり、まして一国一城の主が大言を吐いてはいけません。2020五輪開催決定に向け候補の国がさまざまなプレゼンを行っている最中、安倍晋三首相は「FUKUSHIMA is under control !」と言ってのけたのです。それが東京開催の決め手になったかどうかは知る術もありませんが、廃炉に向けての工程は10年たった今もほとんど進んでいないどころか、むしろ多くの厄介ごとが次々と判明し、まるでコロナウイルスの変異株の前に立ち竦む姿同様、各々の対策が皆後手に回っている国の現状を大変憂慮しています。そして、地下水がらみの汚染水は刻々と増え続け、間もなく貯蔵タンクが満杯になるこの期に及んで政府は処理水を海に流す決定をしました。トリチウム濃度を安全域まで下げるとはいえ近隣諸国からの抗議は報道の如くで、漁業者の反発や推して知るべしです。

第４波のコロナ禍での五輪開催も微妙になってきました。これ以上、日本の評価が下がるような舵取りはやめてほしいと思います。



余市モデル

余市医師会 会長　小嶋　研一

昨年12月、余市町役場の新型コロナワクチン接種担当の方から、正月明けにワクチン接種について相談をしたいとの連絡がありました。１月の理事会後に会いますと返事をしました。

そこで、各自治体向けの説明会資料を検索いたしましたところ、ワクチンはファイザー社製でワクチンの流通管理にV-SYSという新しいシステムを使用することなど、かなり手続きやワクチン管理が面倒な印象を持ちました。またこの時点でのワクチン接種は、集団接種を中心としたものであると理解いたしました。

１月の理事会にて接種方法について話し合いました。各理事からいろいろな意見が出ましたが、最終的にかかりつけ医での個別接種を中心とすると決めました。早速、各医療機関に新型コロナウイルスワクチン接種についてのアンケートを取りましたところ、15医療機関が協力できるとのことでした。

北後志５ヵ町村すべての地域でワクチン接種が可能であることがわかりました。１月中旬に役場の担当者がまいりました。担当者からは新型コロナワクチン集団接種会場として公民館や各学校の体育館、その他地区の会館を挙げ、ワクチン管理や人数調整など医師会の協力体制についての説明をされました。そこで余市医師会として集団接種ありきでなく、個別接種、かかりつけ医での接種を中心とする方式を提案したところ、役場に持ち帰りますとのことでした。

２～３日後、余市町長が話したいとのことで会い、町側の説明と当初集団接種での協力依頼を受けましたが、個別接種、かかりつけ医での接種のメリットをお話したところ、ご理解を得られ、北後志の他町村の調整も余市町が引き受けますとの話で「かかりつけ医中心個別接種方式」余市モデルが決まりました。５月11日より65歳以上の高齢者の接種が始まり、北後志地区はワクチン供給が十分であれば高齢者は７月末、一般住民は11月末で新型コロナワクチン接種が終ります。

新型コロナウイルス感染症の終息を願い、筆を置きます。